

- 過疎地域では少子高齢化や人口減少に伴う物流需要の減少により、物流網の維持が課題となっている。また、都市部では今後のEC(電子商取引)利用等のさらなる拡大に加え、2024年問題による物流業界の労働力不足が懸念されている。
- このような中、2022年12月に無人航空機の有人地帯における補助者なしでの目視外飛行(レベル4飛行)が解禁された。
- ドローン物流の実用化やラストワンマイル配送のためのモビリティ同士の連携を後押しし、デジタル技術の活用による生活利便性の抜本的改善及び非常時を含めた物流網の維持を図るため、過疎地域等においてレベル4飛行に対応したドローン物流に関する実証事業等を実施し、得られた成果を横展開することで、ドローン物流の社会実装を促進する。

<実証の主な観点>

- ① レベル4飛行の物流への活用に向けた課題等の有無 (レベル3飛行とは異なる留意点等)
- ② ラストワンマイル配送の一層の効率化に有効な方策の検討
- ③ ドローン物流事業の継続性の確保に向けた検討

